

台湾新営高級中学校来校！

2月2日（月）、台湾の新営高級中学校より、生徒20名・教員4名が来校し、本校人文科学コース2年生40名と国際交流を行いました。本校からは毎年台湾新営高級中学校を訪問して交流を続けてきましたが台湾側から本校を訪れるのは10年ぶりとなり、生徒が「受け入れる側」として交流を担う貴重な機会となりました。



正面玄関にてお出迎え



A～H班に分かれ活動

Welcome to Japan!

Nice to meet you!

交流は午後から実施され、はじめに視聴覚室にてオープニングが行われました。それぞれの校長挨拶では、本校校長が中国語、新営高級中学校校長が日本語を交えながら挨拶を行い、会場からは大きな拍手が起きました。互いの言葉で思いを伝え合う姿は、これから始まる交流への期待を高め、和やかな雰囲気をつくり出していました。その後、記念品交換が行われ、両校の長年にわたる交流の歩みが改めて確認されました。



親睦を深める両校長



続くスクールツアーでは、本校生徒が案内役を務め、授業見学や、記念館などの校内施設を紹介しました。英語での説明に戸惑いながらも、身振りや表情、簡単な言い換えを工夫し、相手の反応を確かめながら伝えようとする姿が随所に見られました。案内を通して、生徒自身が「伝えることの難しさ」と「通じ合えたときの喜び」を実感する場面となりました。



その後の文化交流では、本校生徒が中心となって企画・準備を進めてきたプログラムを実施しました。日本文化に関するカフトをはじめ、なんでもバスケット、ぼうずめくり、ワードウルフなど、言葉に頼りすぎず楽しめる活動を取り入れたことで、初対面とは思えないほど活発な交流が生まれました。進行やルール説明、グループ分けなども生徒が主体的に行い、相手の様子を見ながら柔軟に対応する姿から、大きな成長が感じられました。



クロージングでは、生徒代表が交流を振り返り、「相手に楽しんでもらうために何ができるかを考え続けた時間だった」「言葉が完璧でなくても、思いを伝えようとする事の大切さを学んだ」といった感想を述べました。最後のプレゼント交換では、短い時間ながらも交流を惜しむ様子が見られ、再会を願う言葉が交わされました。



記念写真

今回の来校交流は、生徒が企画・運営・実践の中心を担い、主体性と協働性を大きく伸ばす機会となりました。人文科学コースでは、今後もこうした国際交流を通して、生徒一人ひとりが多様な価値観に触れ、自ら考え行動する力を育てていきます。